

聖母愛児園報

2019年9月17日発行
〒231-0862
横浜市中区山手町68

話し合いの文化を育て

子どもたちと共に生活を創る

二連覇 ソフトボールチーム

応援しているよ

話し合いの文化を育て

子どもたちと共に生活を創る

事業報告書より

ホーム運営を円滑に行うためにホーム会があります。子どもたちからの要望を吸い上げる事を目的として、月に1度実施しています。

ホーム会で子どもたちから上がった要望について、ホーム単位で解決できるものに関しては担当者間で共有し、子どもたちと話し合いを重ねてきました。聖母愛児園全体に関わる事柄については、子ども運営委員会に議題として上げ、解決を図りました。

子ども運営委員会は、各ホームの代表者を委員として選出し、月に一度の頻度で定例会を実施しました。ホーム会で解決できない事柄を持ち寄り、子どもたち主体で話し合いを行うことで聖母愛児園での生活がより良いものになる様、努めました。



社会体験ツアー



大工体験

また、全児童、全職員が集まる集会を通じて、委員から啓発を行いました。啓発に向けて準備をす

る過程を含めて、話し合うことの大切さ、伝えることの難しさ、達成感を感じられたことでしょう。今後も、継続して啓発をしていきたいという思いが子どもたちにはあり、どうしたらより伝わるのかを試行錯誤しながら話し合いの文化を育てています。

高校生会は、高校生たちの居場所となるよう雰囲気づくりの配慮をしました。更に、高校生メンバーの個性や関係性を考慮して、活動内容の工夫をし、自立に向けた様々な観点からの学びを得るための座学と、積極的に屋外へ出てアウトドアやレクリエーションを行うフィールドワークとで構成し、月1回程度の活動を実施しました。

6月には男女別の宿泊行事を実施。女兒は園内の地域交流ホールにて映画鑑賞をしながら夜中まで語り合い。一方、男児は個々にアルバイトや学校予定があり予定が合わず、平成31年2月に、日頃の学業やアルバイト等に勤しむ多忙な高校生活の息抜きとなるように、園の空きホームを利用して映

画鑑賞や語り合いをしてのんびりと過ごしました。高校生だけで過ごす機会がほぼ無い日頃の生活のため、男女それぞれ様々な話題で語り合い、良い時間を過ごせた様子であった。

一昨年度から実施しているサバイバルキャンプ活動を9月に実施。男児2名女児1名の3名の児童と引率職員3名の合計6名で、伊豆半島へ1泊2日のキャンプ活動に出掛けました。これまで同様、キャンプ道具以外に、食料は米と最低限の調味料のみ準備して、食材はほぼ全て自然から調達してくるという設定で実施。昨年度の反省を活かし、事前オリエンテーションの工夫や、設備が整ったキャンプ場ではなく、空き地(所有者の許可済み)で野営を行

◇寄附金報告◇

2018年度 ¥20,402,529-
(内バザー¥983,155-)

- 聖母愛児園ホームページにて、公開中です。

う等、不便さを味わう事が大い
でき、日頃の生活への有難みをよ
り感じられる内容にする事ができ
ました。

2月には、こちらも毎年恒例の
性教育活動を行いました。性感染
症や性に関するリスクなど、頭で
は理解しているながらも、ネット情
報や学友とのやり取り等から安易
に性トラブルに陥りがちな高校生
たちへ、性に特化した話を展開し
ました。

自立サポート委員会と連携しつ
つ、自立に向けた情報提供や社会
体験ツアーへの参加、2月の集ま



YMCAふれあいイベント

ろう会へのスタッフ参加も実施。
参加した児童は、顔見知りの卒退
園生や元職員が多くいた事もあ
り、特に高校3年生の児童は、卒
後の生活の様子を先輩から聞いて
イメージを膨らませている様子が
見られました。

自立支援への取り組みとして、
進学希望児童に向けて奨学金の紹
介等を行いました。また、フェア
スタートの協力を得て、中学生を
対象に社会体験ツアーを実施しま
した。今回は新たな試みとして、
退所者の職場を訪問し直接話を聞
く機会を設け、参加児童の刺激と
なりました。またビジネスホテル
にて一人一部屋で一泊をする事

で、寂しさの体験、社会の体験に
繋がる取り組みを実施しています
が、寝付けない児童もおり取り組
みの難しさを感じた場面もありま
した。行政についての話や多職種
を見られた事で今後の進路選択等
の参考になる取り組みとしては効
果が期待できる結果となりました。

大人の想いを伝えることは、大
人としての義務ですが、子どもた

ちの想いに耳を傾けることも、大
人としての義務です。その子ども
たちの想いや意見が、実生活に反
映していくことよって、子ども
たちと共に、聖母愛児園での生活
を創り上げていく、そんな文化を
これからも大切にしていきたいま

二連覇
ソフトボールチーム

二連覇達成する事が出来まし
た! 決勝戦、一時は5点ビハイン
ドとなりましたが、気持ちで逆転
することが出来ました。これは子
ども達の大きな成長だと思いま



優勝旗と選手たち

す。

本日は合計4名涙を流すという事
もあつたり、裏では色々な事が起
きています。子ども達が真剣に打
ち込んでいるからこそなのかなと
思います。その成果が結果になつ
て表れ、本当に良かったです。

一人一人へ賛辞を送りたいくらい、
褒める事しか出来ないくらい、試
合中は必死に頑張っています。子
ども達がこの経験を糧に何事にも
気持ちを強く持つて取り組んでい
ける様になっていてくれたらと思
います。

応援しているよ

こんなシーンがありました。試
合前に声を掛けると笑顔。2試合
目で負けてしまえば後は平然を装
っていましたがなかなか戻ってこ
ない。心配になり探しに行くとト
イレで泣いています。デュースも
続きフルセットで敗戦してしま
いかなり悔しさはあつた様子です。
Aが傍で寄り添っていました。接
戦を戦うのは大変なことだが本
当によく頑張っていたこと、観てい
る人は全員、頑張りに感動してい

たよと伝え励まします。その後も
表情がすぐれませんでした時間が
経つと和らいできました。Bを
応援している際に本児の試合の時
にBはとても応援してくれていた
んだよと伝えると「え、そうだつ
たんだ」と言い一生懸命応援して
いる姿がありました。Bが負けて
しまつと「迎えに行つてくる」と
Bの元へ向かいました。

卓球大会



◇子どもたちの様子◇

聖母愛児園イベント記録
<http://seiboaijen.com/blog/>
聖母愛児園Facebookページ
<https://www.facebook.com/seiboaijen>